



献茶彼岸会

3月21日（月）（振替休日）

時間：10時と14時の2回

場所：護国寺本堂にて

※お位牌（又はお写真）と、お好きな茶碗（貸出可）をご持参下さい。

お家から御持ちいただいたお位牌をお堂に祀り、その御前に自分たちで立てたお抹茶を献じます。

（茶道の先生が丁寧に指導してくれます。）

その間住職は十八道華水供という特別な修法をしています。献茶が終わると住職と参加者一同で短いお経を唱え、それぞれの故人様に供養を行います。

時間は約90分を予定しています。

※本来、然るべき流派の段位がなければできないお点前を、今回だけ特別に体験することができます。



日本でのお茶の歴史は、仏教の禅宗とともに発展してきました。今からおよそ820年程前に栄西禅師というお坊さんが、喫茶と呼ばれる一つの文化儀礼として日本に伝えました。

その後、同じく禅僧の村田珠光がわび茶を確立し、かの有名な千利休によって完成されました。

珠光は能阿弥から茶道を習い、一休禅師から仏道の奥義を承け、茶道も仏道も目指すところは一つであるとする茶禅一味の境地に至ります。わび茶とはそんな珠光の透徹した精神を反映しているのです。

『わが心の師となれ 心を師とするな』とはつまり、「執着にまみれた落ち着かない心に、自分の意思が飲み込まれてはいけない。」という意味の珠光の言葉です。

また『家はもらぬほど、食事は飢えぬ程に』とは千利休の言葉です。

利休が亡くなり400年余りが経つ現代に於いても、相変わらず我々は人に囚われ自分に囚われて日マイライラと過ごしています。

4月からは年度初め。この機会に、茶道を通して我執を離れ、身近な故人様との絆を新たに、供え終わった御抹茶を一服・・・如何でしょうか？

参加ご希望の方は3月15日迄に、護国寺までご連絡を宜しくお願い致します。

☎ 0889-24-7244

